

北海道リスタート事業 活動報告

NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト
理事長 坂本純科

団体概要



2009年 エコビレッジライフ体験塾設立
2012年 NPO法人化、余市にて活動開始

<持続可能な暮らしと地域>

- 環境負荷の少ないライフスタイルのモデル
- 個性や多様性を尊重したコミュニケーションと組織づくり
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスで地域活性

農的暮らしの実践・体験



異文化交流



ShiriBeshi留学受け入れ
(後志総合振興局、2019)

教育・研修

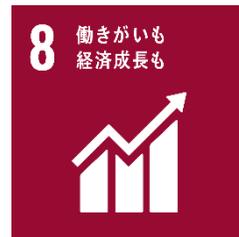


ローカルアカデミー
(環境省、2019)

地域づくり



事業概要



- **事業名:**

農業の担い手育成と持続可能な地域づくり

- **事業対象者:**

余市・仁木町の農家/都市部の若者・移住希望者

- **事業内容:**

① **農業人材への支援(情報、交流)**

② **中長期滞在者向けの住環境調査**

③ **援農者、移住希望者向けのタイニーハウス建設**

① 農業人材への支援

農家バイトやボランティアのサポート

⇒ 求人・マッチング情報

交流研修会

⇒ 移住、就農、持続可能な
地域づくりをテーマに

- ・10月、2月、3月 延べ35名
- ・4月オンライン開催 13名
- ・5月（合宿） 6名



②住環境の調査・整理

- 余市役場・観光協会・近隣農家の聞き取り
- 宿泊施設のリスト作成
- コンテナハウスを修繕し、農業の宿泊に提供
- (10月半ば～11月初旬 6名)



← 太陽光発電とコンポストトイレ
を備えたコンテナハウス

③タイニーハウス

- 援農者、移住希望者の中長期滞在向けに建設
- (16㎡、木造、2人仕様)
- インフラのない地域で環境負荷の低い設備
- モニター利用でニーズ調査→
- オフグリッド体験、ワーケーション

オフグリッド仕様→
太陽光発電、
コンポストトイレ
薪ストーブ、水タンク



得られた成果と課題

■若者の地方や農業に対する興味関心が把握でき、持続可能な地域についての理解が深まった

→農業、移住、空き家などの情報がバラバラで、それぞれアクセスしにくい

■多様な住宅ニーズの確認とエコロジカルで快適な住環境（タイニーハウス）の実証

→ペルソナの設定に問題

■役場や農協、観光協会との連携が強化された

● →農業ボラのマッチングや移住コーディネートの依頼

SDGs教育旅行の実施

地域ぐるみで教育旅行の受け入れ →地域SDGsを推進

例1 余市の歴史と今から海の豊かさを考える

例2 漁業の現状と水産資源の保全を考える

例3 森林の多面的機能と気候変動を考える

例4 外来種問題から生物多様性を考える

例5 果樹栽培の現状と農業の担い手問題

例6 ワインツーリズム～持続可能な観光

例7 外国人労働者と多文化共生社会



2021～2022年度（環境省地域循環共生圏事業）

①SDGs研修のプログラム開発



モニターツアー



ガイド養成講座



地産弁当の試作

②町民向け学習会（地元学）



シリパ山調査



余市りんごの
歴史研究会



給食研究会

③ 体制づくり



各種専門家との検討会、
ヒアリング

- ・ 役場
- ・ 地元生産者
- ・ 飲食店
- ・ 旅行業
- ・ 教育関係者
- ・ 海の専門家
- ・ 森の専門家
- ・ 小規模ワイナリー